

久留米シティプラザ  
ユースプログラム  
新しい演劇鑑賞教室  
後期  
参加者募集!!

1 10月19日(日) 13:15-16:45

13:15-14:15 イン트로ダクション

14:30-16:00 プレレクチャー  
「劇場で考える  
～わかりあうこととは～」

16:10-16:45 感想シェア会

2 12月7日(日) 13:30-15:55

13:30-14:40 「わかれうとは  
おもっているけど」鑑賞

14:55-15:55 対話の時間

「わかれうとはおもっているけど」は、男女の価値観の異なりを手がかりに制作された作品です。人と人がわかりあうことは、家族やカップルの関係に限らず、とても難しいことでしょう。さまざまな分断が叫ばれる現代の日本社会において、自分の正義とは異なる正義と、いかに向き合い、わかりあうのか。「演劇で学ぶフェミニズムのやさしい入門書」とも評される本作を手がかりにしながら、一緒に考えてみましょう。

——企画監修・進行 長津 結一郎  
(九州大学大学院芸術工学研究院准教授)

多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走/伴奏する研究者。専門はアーツ・マネジメント、文化政策、障害のある人などの多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究を行っているほか、音楽実技やワークショップに関する教育、演劇・ダンス分野のマネジメントやプロデュースにも関わる。2013年東京藝術大学大学院博士後期課程修了、博士(学術・東京藝術大学)。著書に『舞台の上の障害者:境界から生まれる表現』(単著。九州大学出版会、2018年)、『アートマネジメントと社会包摂』(共編著。水曜社、2021年)など。

対 象 / 15～25 歳程度 ○指定する日程 (10/19、12/7) にすべて参加できること  
定 員 / 15 名程度 (先着順)  
料 金 / 2,000 円・高校生 1,000 円 (全 2 回分合計) ※料金には鑑賞チケット料を含んでいます。チケットの手配は不要です。※お支払いは参加案内時にご連絡いたします。  
応募方法 / 次の①～⑧を明記の上、応募先で WEB フォーム、郵送のいずれかでご応募ください。  
①ユースプログラム後期参加希望 ②氏名(ふりがな) ③年齢 ④所属先(あれば。学校名/会社名など)  
⑤メールアドレス ⑥電話番号 ⑦住所 ⑧応募動機  
※ WEB フォームでの応募の場合、返信をもって受付完了とします。5 日以上たっても返信がない場合は、お問合せ先までご確認ください。

募集締切 / 2025 年 10 月 9 日 (木) 必着 ※定員に達しない場合は締切日を延長します。詳しくはお問合せください。  
ご応募・お問合せ / 久留米シティプラザ「ユースプログラム」係  
〒830-0031 福岡県久留米市六ツ門町 8-1  
TEL 0942-36-3000 (10:00～19:00/金館保守点検による休館あり) FAX 0942-36-3087  
kcp-j@city.kurume.lg.jp

交通アクセス

久留米シティプラザ

〒830-0031 福岡県久留米市六ツ門町 8-1

- JR : 久留米駅から路線バス 10 分、徒歩 20 分
- 西鉄電車 : 西鉄久留米駅から路線バス 5 分、徒歩 10 分
- バス : 「六ツ門・シティプラザ前」バス停下車
- 自動車 : 久留米 I.C. から約 15 分

※ 久留米シティプラザ地下駐車場 (109 台/1 時間 200 円)  
ほか周辺の駐車場をご利用ください

<https://kurumecityplaza.jp/>



# 久留米 シティプラザ ユースプログラム 2025

作品の鑑賞と  
参加者同士の対話などを  
組み合わせた  
プログラム。

新しい  
演劇鑑賞  
教室  
後期  
参加者募集!!



日程 2025 年  
10月19日(日)、12月7日(日) 全 2 回

募集締切 | 2025 年 10 月 9 日 (木) 必着 会場 | 久留米シティプラザ

主催 : 久留米シティプラザ (久留米市) 連携 : 久留米大学 文学部 国際文化学科

助成 : 文化庁文化芸術振興費補助金 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



# 実施概要

久留米シティプラザで2022年度から行なっている「知る／みる／考える 私たちの劇場シリーズ」では、アーティストが敏感に感じ取った社会のゆがみや希望を表現した演劇作品の上演を通じて、社会に対する着眼点が増え、既存の価値観が揺さぶられるような、芸術ならではの体験をお届けしています。このシリーズでは、次代を担う10代、20代のみなさん向けに、作品の鑑賞に参加者同士やアーティストとの対話を組み合わせたユースプログラム「新しい演劇鑑賞教室」を前期・後期の2回にわけて実施しています。

2025年度後期に取り上げる作品は、「わかろうとはおもっているけど」です。演劇に触れてみたい方、社会について考えをめぐらせてみたい方、今まで知らなかった世界へ踏み出してみたい方など、みなさまの参加をお待ちしています。



Photo: Kengo Kawatsura



ぜい たく びん ぼう

## 贅沢貧乏『わかろうとはおもっているけど』

作家・演出家・俳優の山田由梨が全作品の作・演出を手がける、東京を拠点に活動する劇団「贅沢貧乏」。舞台と客席、現実と異世界、正常と狂気の境界をシームレスに行き来する演出スタイルを通じて、現代日本が抱える社会問題をポップかつ軽やかに浮かび上がらせる作風が特徴です。

本作は、日本社会に根付く女性蔑視やジェンダー格差への違和感をきっかけに創作されました。妊娠を機にすれ違うカップルの姿を通して、日常生活にひそむ性別による役割分担の意識や社会のしきみに問いを投げかけます。

**あらすじ** テル（大場みなみ）とこうちゃん（山本雅幸）はどこにでもいるような普通のカップル。あるとき、テルが妊娠した、という出来事から空気が変わり始め、テルの友達（佐久間麻由）やなぜか家にいるメイドたち（大竹このみ・青山祥子）を巻き込んでゆく。「女性」と「男性」の「わかりあえなさ」を「わかりあおう」とした先にあるものとは。

**日時** | 2025年12月6日（土）18:00 開演、7日（日）13:30 開演

**会場** | 久留米シティプラザ C ボックス

**作・演出** | 山田由梨

**出演** | 大場みなみ 山本雅幸 佐久間麻由 大竹このみ 青山祥子

山田由梨（「贅沢貧乏」主宰）からのメッセージ

「男女平等って可能だと思いますか？どんなふうになったら平等だと思いますか？」この作品は、とある男女のカップルが妊娠というテーマを軸にわかり合おうとするお話です。初演時には、一緒に観に来た人と感想を話し合い盛り上がったという声も多く聞かれました。是非お友達やパートナーと観に来てどんな感想を持つのか教えてください！」

本プログラムの  
参加者は  
12/7（日）  
鑑賞

**作・演出** | 山田 由梨（作家・演出家・俳優）

1992年東京生まれ。立教大学在学中に「贅沢貧乏」を旗揚げ。全作品の作・演出を務めるほか、ドラマ脚本・監督、小説・コラム執筆も手がける。『フィクション・シティ』（17年）、『ミクスチュア』（19年）で岸田國士戯曲賞ノミネート。セゾン文化財団セゾンフェロー。主な担当ドラマに、Abema TV「17.3 about a sex」「30までにとるさくて」脚本。NHK 夜ドラ「作りたい女と食べたい女」脚本。WOWOW「にんげんこわい」シリーズでは脚本・監督として参加。



### 1 2025年10月19日（日）

「わかろうとはおもっているけど」関連事業として一般向けに開催するプレレクチャーに参加します。終了後は、ゲストを交えて感想シェア会を行います。

13:15-14:15

#### イントロダクション

14:30-16:00

#### プレレクチャー

#### 「劇場で考える ～わかりあうこととは～」

16:10-16:45

#### 感想シェア会

#### 内容 プレレクチャー

##### 「劇場で考える～わかりあうこととは～」

『わかろうとはおもっているけど』は、日常生活にひそむ性別による役割分担に対する意識や、社会のしきみに問いを投げかけるような作品です。多様な価値観が交差する時代に、他者どのように理解しあい、共に生きていくか。プレレクチャーでは、「わかりあうこと」をテーマに、様々な立場からヒントを探ります。

#### ゲスト 井上 智史

九州大学大学院人間環境学研究院講師、前久留米市男女平等政策審議会長）福岡県生まれ。専門は社会学。ジェンダー／セクシュアリティの視点から現代社会における社会的排除の現状について調査研究を行ってきた。九州大学大学院人間環境学府博士後期課程単位修得退学、中村学園大学短期大学部講師を経て、2023年4月より現職。共著書に『ジレンマの社会学』（2020年、ミネルヴァ書房）、『入門・福祉社会学』（2023年、学文社）など。

#### 吉岡 麻衣

（言語聴覚士、ことばの教室ことりんく代表、どげんね！うきは共同代表）北九州市生まれ。言語聴覚士として医療や福祉の現場で経験を重ね、うきは市にて「ことばの教室 ことりんく」を開業。ことばの発達やコミュニケーションに不安のある子どもたちがのびのび自分を表現できるよう支援。町の未来を考える市民団体「どげんね！うきは」の共同代表としても活動し、子どもたちが自分らしく社会とつながることを目指している。

#### 進行 長津 結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院准教授）



イントロダクション

プレレクチャー

対話の時間

### 2 2025年12月7日（日）

「対話の時間」では、作品を鑑賞し、考えたこと、感じたことを言葉にしてみます。他の参加者と対話を重ね、自身の鑑賞体験を深めます。

13:30-14:40

#### 「わかろうとはおもっているけど」鑑賞

14:55-15:55

#### 対話の時間

ゲスト 山田 由梨

進行 長津 結一郎

プレレクチャー（10/19）、公演（12/6、7）は本プログラム参加者以外もご入場いただけます。  
※ 詳細は久留米シティプラザ公式 WEB サイトをご確認ください。

